洗練された授業

正しいのこぎりびきを習得する授業

９月２８日（木）３校時に、１年３組で平野隆夫先生による技術の研究授業が行われました。本時のねらいを見ると、「目指す姿」が「正しいのこぎりびきのし方を自分で習得する」となっています。この「自分で」に授業者の思いが感じられます。

そのための「手だて」が「パーフェクトガイドで一つ一つのポイントを確認しながら進める」です。パーフェクトガイドは平野先生の自作です。世の中でいうと、取扱説明書や組立説明書のようなものです。このようなものを自分で読んで理解できる生徒を育成することが、リーディングスキルのねらいでもあります。

生徒に提示した学習課題は、「上手なのこぎりびきとはどのようにすればよいのだろうか。」です。平野先生は、上手とは正確で安全なこと、スピードは関係ない、きれいにできることだと説明しました。そして、「自分で探ってみてください」と話しました。

すなわち、この時間は失敗が許されるということです。試験片と呼ばれる木材を自分で切断しながら、上手なのこぎりびきを習得する時間です。パーフェクトガイド以外にもタブレット端末で動画も視聴できます。

生徒たちは、パーフェクトガイドの項目を「こういうことかな」と班内で話し合いながら確認していきます。動画も見ます。そして、実際にのこぎりを手にして切ってみます。なかなかうまくいきません。切っているうちに、コツのようなものをつかんでいく生徒もいます。そのコツのようなものがパーフェクトガイドに書いてある内容です。

生徒が一通り試験片の切断を経験したタイミングで、平野先生は生徒を集めて示範してみせました。大切なポイントを説明しながらやってみせます。まるで、師匠と弟子です。生徒は、食い入るように見ています。なぜなら、うまくいかなかったからでしょう。どうすればうまくいくのか、どの生徒も上手に切りたいのです。上手に切れるようにならないと、自分の製品づくりに影響します。

振り返りは、タブレット端末を使っていました。短時間で今日の授業内容のポイントを確認し、自分の取り組みを振り返ることができるようになっています。生徒は慣れており、実に効率的です。

今回の授業では、のこぎりびきのし方をマスターするために、パーフェクトガイド、動画、授業者示範の３つが提示されました。一番わかりやすかったのは、平野先生の示範です。動画もいいのですが、示範にはかないません。目指したいのは、パーフェクトガイドのような説明を読み、内容を理解して正しくできるようになることです。まさしくリーディングスキルに関わる授業でした。

パターンＣによる洗練された授業

１０月５日（水）３校時には、１年２組でパターンＣによる２回目の授業が行われました。１回目の授業から改善された点がありました。

- ○ 導入での説明が１回目よりも分かりやすくなりました。しかも時間が短縮されコンパクトな導入となりました。
- ○ １回目では、平野先生の示範を見て授業が終わりました。これだと、模範を見て「よし、やってみよう」と思っても、やらずに終わってしまいます。そこで、２回目では、各班の代表者が実際に切ってみたところで、示範を入れました。このほうが、教わったことをすぐにやってみることができます。自分の上達を実感でき、それが製品づくりへの意欲付けへとつながります。

切る作業の終盤では、たまたま一人の生徒だけが残ってしまいました。まわりの生徒はみんな終わっています。この生徒は焦ったことでしょう。すると、平野先生は、その生徒を見るように全体に指示しました。焦ってしまうところだが、このようにゆっくり切ることが大事だと説明しました。この生徒は何事もゆっくり確実にやるタイプでした。焦って切らない見本としたのです。この生徒は救われた上に褒められました。

１回目と比べると、無駄がそぎ落とされ、洗練された授業となっていました。授業を改善するという意識が感じられました。授業を変えられる、これすなわち授業力なのではないでしょうか。